

以森伝心

理事長 柏原康夫筆

18

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会情報誌「以森伝心」 第18号 2012年11月

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか



楮(和紙の原料)

長い時を越えて生き続ける、伝統の技術「黒谷和紙」

森林のなかまたち「一般社団法人 ガールスカウト京都府連盟」

自然観察ツアー「秋の花脊三本杉と大悲山峰定寺を訪ねて」

知ってあんしん! フィールド安全講座「狩猟解禁! 冬山ならではの危険」

森林に生かされる人々「栗づくりの名人 山内善継さん」



長い時を越えて生き続ける、伝統の技術

黒谷和紙



黒谷町

京都府綾部市の北部、黒谷町に伝わる「黒谷和紙」。伝統的な古法の技術で漉かれる黒谷和紙は、京都府無形文化財にも指定されている。「黒谷和紙工芸の里」にて、職人の林伸次さんに、黒谷和紙についてお話をうかがった。

——まずは、黒谷和紙の歴史についてお聞かせください。

今を遡ること約 800 年、戦いに敗れ山間に身を潜めていた平氏の一族が、自生していた楮こうぞと川の水を使って紙を作り始めたと言われています。後にその地は「黒谷」と呼ばれるようになり、江戸時代中期、地域を治める山家藩やまがが紙の製造に力を入れたことから、「紙漉き村」として発展しました。



紙漉き職人 林伸次さん

昔は冬期の農家の副業として盛んに紙が漉かれていて、京都府内にも紙の産地が多くありました。しかし、西洋技術・文化の流入により、和紙から洋紙へ、手から機械へと激変し、和紙の生産地も激減していきました。

そんな中、黒谷は和紙の産地として残り続け、今日も 10 名の職人が純粋な手漉き和紙の制作に取り組んでいます。

——なぜ黒谷は時代の逆風に負けることなく、和紙の産地として生き残ることができたのでしょうか？

それには二つの要因があげられます。一つ目は、組合がしっかり運営されていたことです。できあがった紙は組合がまとめて問屋へ卸していたので、紙漉き屋が個々に売買することはなく、価格競争や値崩れは起きませんでした。職人は紙作りに集中できたので、技術を伝承し続けることができたのでしょう。

二つ目の要因は、時代の流れに乗って新たな和紙の需要を生み出したことです。昭和の前半、番傘や障子の紙の需要が無くなったことで紙の産地は痛手を負いましたが、黒谷和紙の組合は加工部を設け、便せんや封筒など当時としては新しい和紙



黒谷和紙工芸の里に展示されている昔の道具

楮こうぞが黒谷和紙になるまで

楮生産組合の作業

- 1 楮収穫…12月、畑で育てた楮の木を切る。(翌年同じ根から、また枝が伸びる)
- 2 楮蒸し…皮を取りやすくするため蒸す。

- 3 加工…熱いうちに、使用する皮の部分をはぎ取る。(はぎ取ったものを「黒皮」と呼ぶ)そして乾燥させ保管。



楮

黒谷町での作業

- 4 楮もみ…「黒皮」を川につけ、足で踏んで揉む。
- 5 楮そろい…表皮とキズを削り取り白皮にして保管。



白皮となった楮

工芸の里での作業

- 6 煮ごしらえ…水に二日ほどつけて柔らかくする。
- 7 楮煮…煮る。



- 8 みだし…水洗いし、小さなゴミを取る。
- 9 紙たたき…餅つきのようにたたいて繊維をほぐす。



製品の企画・開発を始めました。この試みは世間から注目を浴び、黒谷の名が知られることとなったのです。

古くからある純粋な紙漉きを守ること、そして、新しいアイデアでものづくりをすること。黒谷和紙が生き続ける上で、このどちらもが必要なことだと思います。



加工作業

——林さんにとって、和紙作りの魅力とは何でしょうか？

黒谷和紙の制作行程を見てみると、山、川、里にあるもので全てまかなわれていることがわかります。これは、人が自然に寄り添って生活していた時代から続いている、

伝統的な技術ならではの魅力です。和紙作りを通して、より多くの人に、自然と人とのつながりを感じて欲しいと考えています。



紙漉き作業

⑩ ビーター…水とたたいた楮をビーターに入れ、どろどろの綿状「紙素」にする。



⑪ 紙漉き…漉き船に水、「紙素」そして、「トロロアオイ」の根から出てくる粘液「サナ」を入れ、簀笥で漉く。

トロロアオイの根



⑫ 押し…漉き重ねたものをプレスし水をしぼる。



●黒谷和紙会館

京都府綾部市黒谷町東谷 3 番地

TEL 0773-44-0213 開館時間 9:00 ~ 16:30
開館日 月～金曜日(お盆、年末年始をのぞく) 入館料 無料
体験料 ハガキ紙漉き体験 700 円 ※ 1 週間前までに要予約

●黒谷和紙工芸の里

京都府綾部市十倉名畑町欠戸 31 番地

TEL 0773-45-1056 開館時間 9:00 ~ 16:30
開館日 土・日曜日(お盆、年末年始をのぞく)
※ 6 名様以上の団体は要予約。
※ 月～金曜日については、6 名様以上のご予約があれば対応可。
入館料 大人: 300 円、小学生～高校生: 200 円、小学生未満: 無料
体験料 ハガキ紙漉き体験 700 円



「黒谷和紙会館」、「黒谷和紙工芸の里」では、資料展示、和紙工芸品の販売コーナーがあり、和紙の手漉き体験もできる。林さんが言う、「山、川、里のつながり」に触れに、訪れてみてはいかがでしょうか。



閉校した小学校を利用して平成 17 年に開館した「黒谷和紙工芸の里」



⑬ 乾燥…蒸気ボイラー乾燥機か板干しで乾燥。

⑭ 選別…紙の重さ・出来具合をチェック。

⑮ 加工





緑の募金や森林観察などの緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を行っている「緑の少年団」。その中には、「ガールスカウト」「ボーイスカウト」を母体とするものも少なくありません。今回は、ガールスカウトの活動を紹介するため、連盟長の吉田さんにお話をうかがいました。

自ら考え行動できる、少女たち、若い女性たちを育てるために

ガールスカウトは、ボーイスカウト運動を始めたイギリスのロバート・ベードン・ボウエル卿により1910年に発足し、活動は妹のアグネスに託されました。その後世界へ広まり、1920年に日本でも「日本女子補導団」という名で活動が開始しました。第二次世界大戦により一時中断しましたが、戦後アメリカより伝わった「ガールスカウト」の名で活動が再開し、2010年に90周年を迎えました。

紋章に刻まれた「そなえよつねに」の言葉の通り、少女たち、若い女性たちが「どこにいても困らないよう、生きる

緑の少年団とは

緑の少年団は、森林整備等の推進に用いることを目的とした「緑の募金」で知られる国土緑化推進機構の呼びかけで始まり、昭和35年から各地で少年団が誕生した。昭和50年代から都道府県連盟の組織化が進み、平成元年「全国緑の少年団連盟」が設立された。現在全国で約3,700団体が活動している。

京都府では31団体が登録されており、学校母体の団が15団体、地域活動団が16団体ある。この地域活動団のうち、4団体がガールスカウトである。ガールスカウトは、「緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていくこと」を目的とした緑の少年団活動を自身の活動に取り入れ、

植林、枝打ち、竹の間伐、木工細工、ゴミ拾いなどの活動を行っている。

「ガールスカウト京都緑の少年団」入団式

一般社団法人 ガールスカウト 京都府連盟

ガールスカウトは、少女たち、若い女性たちの生きる力を育てることを目指した社会教育団体。ガールスカウト京都府連盟は、京都府下で活動する約40団をとりまとめている。



事務局 〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70 京都府民総合交流プラザ東館3階 TEL: 075-692-3460

力を備えた人となる」よう手助けするのがガールスカウト活動です。スカウトと呼ばれる会員の対象は、就学1年前の児童から高校生相当年齢の少女まで、成長過程にあった活動をするために年齢別の5部門に分かれ、それぞれの年代にふさわしい活動目標を設けています。

活動の三本柱は「人との交わり」「自己開発」「自然とともに」で、互いを尊重する心、自ら考え行動する力、恩恵の念と豊かな感性を育みます。具体的な活動内容は、森林での野

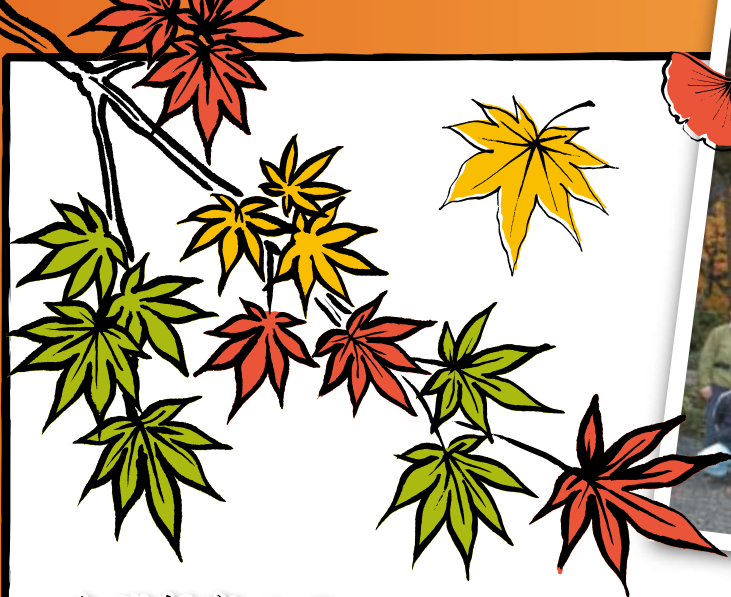
外活動の他、「緑の募金」集めなどの奉仕活動、国際交流、茶道裏千家のマナー教室や地域と連帯した活動など多種多様です。注目すべきは、面白いことや楽しいことだけでなく、辛抱が必要なこと、苦勞することも体験してもらい、達成感を味わって成長してもらうことが狙いです。スカウトも、活動を支えるリーダーも、随時募集中です。ご関心いただけましたら、ぜひ一度見学にお越しください。お待ちしております。



上/茶道裏千家淡交会によるマナー教室
下/トイレ振りや水くみを体験する夏のキャンプ



「一般社団法人ガールスカウト京都府連盟」
よしだみちこ
連盟長 吉田道子



自然観察ツアー

『秋の花脊三本杉と大悲山峰定寺を訪ねて』

カエデ、カツラ、トチなどの広葉樹がきれいに色づき始め、スギやヒノキの常緑樹と美しいコントラストを見せる錦秋の山々。源流域の澄んだ流れが赤や黄色の落ち葉を集め優しい瀬音を谷間に響かせる紅の上桂川。時折やって



林道を歩きながら自然観察

くる北山時雨が一層もみじの美しさを際立たせてくれる静寂の中にたえず大悲山峰定寺。絵画のような風景の中、会員 47 名参加のツアーがスタートしました。

8 時半に地下鉄国際会館駅前を出発し、途中休憩を挟み、10 時半に峰定寺に到着。寺務所で頭陀袋と杖を受け取り、活動を開始。山門から四百段の石段を登りつめた先にある本堂は、舞台懸崖造りと言われる独特の構造で、岩肌に屹立し周囲は修験道の修行場となっています。本堂からの眺めはまさに絶景。身も心も清めた後、石段を下り、ご住職より峰定寺の歴史や収蔵庫に収められている本尊十一面千手観音像や山門の仁王像などのお話を伺いました。ご住職の中村覚祐師は、聖護院門跡執事長として通常は聖護院で勤務。当日はモデルフォレスト協会のために花脊まで足を運んでいただきました。



太古の昔からこの地で生を育んできた三本杉

ぶ じょう じ

山村都市交流の森・^{すいほうそう}翠峰荘から届けられた温かいお味噌汁と松茸ご飯のお弁当をいただき元気百倍の一行は、片道およそ 30 分の山道を三本杉目指して出発。目にした杉の巨木は見上げると先が見えないほどの大杉で、同行した京都森林インストラクター会の篠部会長のお話では周囲 18 m 高さ 35 m もあるとのこと。谷筋にあるため落雷などの被害に遭わずこの高さまで成長したそうです。

帰途、翠峰荘で一時間ほど足湯に浸かったりコーヒーを飲んだり、各自ゆっくり時間を過ごし、出発地に無事戻りました。皆様お疲れ様でした。(森稔)



錦秋の色に輝く大悲山峰定寺 (門前橋と仁王門)

山村都市交流の森

桂川と安曇川の二つの源流域にまたがる 1000ha の広大な森林公園。ハイキングや川遊び、バードウォッチングなどはもちろん、木工体験やバーベキューが楽しめるスペースもある。併設された「翠峰荘」では宿泊も可能。

住 所	〒 601-1103 京都市左京区花脊八樹町 250
TEL	(075) 746-0439
FAX	(075) 746-0134
営業時間	9 : 00 ~ 17 : 00
休館日	毎週火曜日 (火曜日が祝日の場合は翌日) 年末年始 (12 月 28 日 ~ 1 月 5 日)

知ってあんしん！ フィールド安全講座

第2回 狩猟解禁！ 冬山ならではの危険

積雪などで森林整備活動が停滞する冬季。とはいえ、雪が積もった竹が送電線を切断したり、積雪のせいで弱った樹木が倒れたりするため、まったく森林に入らないわけにもいきません。

そんな冬山での活動で忘れてはいけないのは狩猟期間だということ。

仕掛けられたわなでケガをしたり、狩猟鳥獣と間違われて撃たれたりしないために狩猟についての知識も大切です。

銃による猟

「森林でハンターに撃たれないように気を付けよう」などと意識したことがない人も多いと思いますが、実はイノシシやシカに間違われて人が撃たれる事故が全国で毎年発生しています。

狩猟期間は年や地域によって異なり、京都府では11月15日～翌年2月15日までとされています(シカ、イノシシのみ3月15日まで延長)。その時期になると市街地付近の山でも、イノシシやシカなどの狩猟が行われています。

しかし、狩猟はどこでもできるわけではありません。「鳥獣保護法」によって狩猟可能区域や捕獲不可の鳥獣などが細かく指定され、鳥獣保護区、休猟区、特定猟具使用禁止区域(旧銃猟禁止区域)や、人家密集地、公園、墓地、農地など

での狩猟が禁止されています。

逆にいえばそれ以外の場所では狩猟が行われる可能性があります。肩に猟銃を抱えオレンジ色のチョッキを着て猟犬を連れた人を見かけたら、その付近は狩猟が行われている地域でしょう。また、散弾銃の薬莖などが落ちて^{やっさう}いる地域も注意したい地域です。

そういう地域には入らないことが重要ですが、もし、どうしても入る必要があるなら、離れたところからでもハンターに気がついてもらえるような、目立つ色の服装で、鈴やラジオなど、音がするものを携帯するといった自衛も大切です。



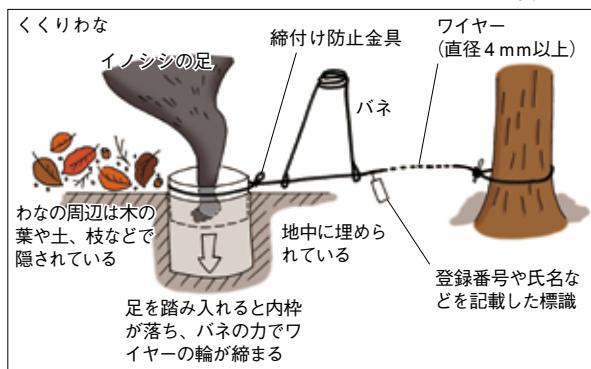
わなによる猟

銃による狩猟ができない地域でも、わなによる狩猟が可能なのはよくあります。

「くくりわな」「はこわな」「はこおとし」「囲いわな」などが使われ、特に畑を荒らすイノシシには輪になったワイヤーを使うくくりわながよく用いられるため、森林でも遭遇する可能性があります。輪になったワイヤーがバネで締まる単純な仕掛けですが、逃げようともがけばもがくほど締まるようになっていて、動物は足がちぎれてもしない限り逃げることはできません。人間であれば外すことができますが、小さな子どもは力もなく緩め方も知らないで脱出できないことが考えられます。子どもと入山する際には、「わな注意」の貼り紙に注意しましょう。



囲いわな



山や農作物を動物が荒らすのは、人間と自然が共生するためのバランスが崩れてしまっているからでしょう。狩猟はこのバランスを調整する役割を担っています。冬季に森林に入るときは、猟やわなについての看板に注意して、危険予知することをお勧めします。

もり 森林に生かされる人々

森林からの恩恵を受け、森林とともに生活している人たちを訪れ、その生業や暮らしを紹介します。

「地域のことは地域で取り組む」を信条に 丹波くりの生産拡大を目指す

やまうち よしつぐ
山内 善継さん（栗づくりの名人）

京丹波町市場で、大粒で風味のある丹波くりを生産する山内善継さんは、今年9月に国土緑化推進機構により「森の名手・名人」に選ばれました。

山々に囲まれ、昼夜・夏冬の温度差が大きい丹波地域は、国内で最も栗の栽培に適した地域の一つであると言われています。栗と私たちの関わりは古く、縄文時代から栗の栽培が行われていたことが分かっています。

山内さんの栗園は、もとは耕作放棄地だった場所です。栗の木は3.5mの高さになるよう剪定します。これは効

率よく光を当て、風通しを良くするとともに、手入れをしやすいようにするためです。鶏糞や牛糞のほか、刈った草や栗のイガなども有機肥料として栗園の中で循環させます。苗木は自分で実生から育て、毎日のきめ細や



山々に囲まれた栗園

かな見回りを欠かしません。

府内の丹波くりの出荷量は最盛期の10分の1の150トンにまで減少しています。その原因として、山内さんは他の産品と同様、輸入品の増加や農家の高齢化、後継者難、野生鳥獣による被害の増加を挙げます。鳥獣害については、山に動物のエサとなる実のなる木が少なくなったことが原因だと指摘します。

現在、420名の会員を抱えるJ A京都丹波くり部会長を務める山内さんは、地域が一体となって丹波くりの生産拡大を目指すために「スリー運動」を提唱しています。これは、農家1軒あたり①30アールの栗園をつくる、②10アール当たり300kgの収穫を目指す、③3L(39mm)以上の大粒栗の収穫を目指す、というものです。

中学生の頃から栗の接ぎ木や剪定作業を行い、50年以上栗の栽培に関わってきた山内さん。37年間役場に勤務しながら、休日は父親を手伝って農業に従事。在職中の20年間は、農林部署で丹波黒豆や京水菜などの産品開発に携わってこられた。退職後は、地域の農家から接ぎ木や剪定の依頼があれば無償で引き受け、地域に自身の農業技術を伝えていくための活動をされている。



最後に山内さんは、「地域のことは地域住民が頑張らなければならない。生産量を増やす技術も野生鳥獣から農作物を守る方法も、地域住民が知恵を出し合い、取り組むことが大切だ」と力強く語りました。



上／3.5メートルの高さにそろえる
左／春に植える栗の実は、冬の間乾燥しないよう、おがくずの中で保管する

《レポートを終えて》

獣害を減らし、農家が安心して農作物を生産できるようにするためにも、豊かな森林づくりを目指したいと思いました。

（取材：西本雅則・小山直美）

活動報告

「森の名手・名人」に認定

9月3日、国土緑化推進機構が林野庁と行っている「もりのくに・にっぽん運動」の「森の名手・名人」に宇治田原町の藤本英一氏（森づくり部門）と京丹波町の山内善継氏（森の恵み部門）が選ばれました。



藤本氏は先の尖った棒状の「とび」を用い木材を運搬する技術が、山内氏は樹づくりと土づくりによる大粒栗の生産が高く評価されました。

「ふれあいの森林づくり」に井手町の協議会が選出

9月6日、国土緑化推進機構が行っている「ふれあいの森林づくり」表彰に「井手町豊かな清流を守る会」が選ばれました。



同協議会は、モデルフォレスト運動による森林づくりをはじめ、大正池グリーンパーク周辺での植樹、薪づくりや炭焼き体験などの森林体験教室など、都市住民と交流するふれあいの森林づくりに貢献している点が高く評価されました。

「水都おおさか森林の市」に参加

10月7日に大阪の毛馬桜之宮公園にて「水都おおさか森林の市2012」が開催されました。

「森林の市」は、森林への理解を深めることを目的としたイベントで、当協会においてもモデルフォレスト運動のPRや緑の募金活動を行いました。



「竹の環プロジェクト」を開催

10月20日、京都大学桂キャンパスで11回目となる「竹の環プロジェクト（秋編）」を開催しました。

当日は、竹の環プロジェクトを主催した京都大学・住友生命保険相互会社・京都府・当協会のメンバーとともに一般参加者を含めた95名が参加しました。晴天の秋空の下、京都土の塾、京都森林インストラクター



会、山仕事サークル杉良太郎の方々の指導を受け、健康な竹林に育てるため、竹の間引きや整理を行いました。



京セラと協定を締結

11月7日、京セラ株式会社及び京セラ労働組合が京田辺市の『甘南備山』において、森林づくり活動を実施するにあたり、社団法人薪甘南備山保存会、京田辺市、京都府及び当協会と森林の利用保全に関する協定を締結しました。（府内で38例目）

今後は、地域の方々とともに歴史ある甘南備山の森を守る取り組みが進められます。



自然観察ツアーを開催

11月10日、京都府の歴史的な自然環境保全地域に指定されている花脊大悲山において、当協会主催の自然観察ツアー「秋の花脊三本杉と大悲山峰定寺を訪ねて」を開催しました。（詳細はP4をご覧ください。）

発行：公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

入会案内資料をご希望の方は、ご連絡ください。

〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町 104-2 府庁西別館内
TEL & FAX 075-414-1270 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp
URL <http://www.kyoto-modelforest.jp>
2012年11月発行
編集・デザイン：自然堂（じねんどう）株式会社



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用したFSC認証用紙を使用しています。